

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

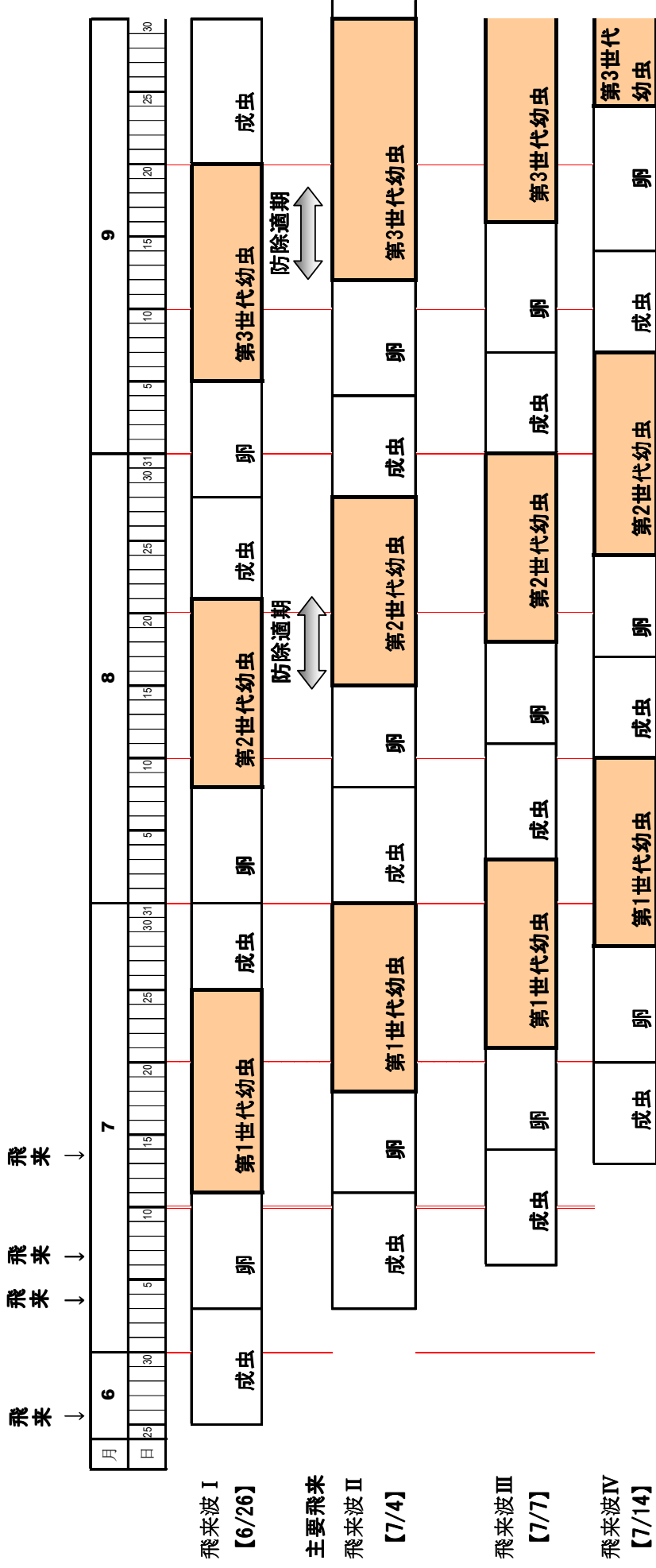
水稻の海外飛来性害虫の発生予想パターン図について

トビイロウンカの8月2半旬の現地ほ場における発生状況及び最新の気温を基に作成した発生予想パターン図をお知らせいたします。今後の防除対策の資料として活用をお願いします。

速報 第6号

- 1 作物名 水稻
- 2 病虫害名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県下全域
- 4 予想の内容 発生量：平年並、前年よりやや多
発生予想パターン：技術情報第1号での予想よりやや遅延
- 5 予想の根拠
 - (1) 8月2半旬の調査の結果、10株当たり成幼虫数（密度）は0.80頭（平年1.00頭、前年0.06頭）、発生ほ場率は43.5%（平年37.7%、前年9.1%）でいずれも平年並であった。
 - (2) 粘着板に捕獲された本種の齢構成は、若齢45.7%、中齢33.7%、老齢7.6%、成虫13.0%で、これらの成幼虫は、発生パターン図によると6月26日飛来後の第2世代幼虫及び7月14日飛来後の第1世代幼虫、7月4日、7日飛来後の第1世代成虫であると考えられた。
- 6 防除上注意すべき事項
 - (1) 本種の齢構成が混在しているため、7月4日を主要飛来とすると、防除適期は、8月15日～8月21日（第2世代若齢幼虫期）及び9月13日～19日（第3世代若齢幼虫期）と考えられる。
 - (2) 発生予想パターン図を最新の気温を基に作成した結果、高温によるウンカの発育遅延のため、防除適期が当初の発生予想パターンよりやや遅くなっている。
 - (3) 本年は飛来日が6月26日、7月4日、7月7日、7月14日と飛来回数が多く（技術情報第1号参照）、地域により主要な飛来日が異なることがあるので、ほ場における発生状況を把握し、適期（若齢幼虫期）に防除を行い、防除実施後もその後の発生状況に注意する。
 - (4) トビイロウンカの飛来量はセジロウンカに比べて少ないが、飛来後の増殖率が極めて高い。また、地域やほ場による発生の差が大きいため、ほ場における発生状況を把握し、発生予想パターン図を参考にしてできるだけ若齢幼虫期に防除を行う。
 - (5) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に蒸発して防除効果が著しく低下する場合がある。
 - (6) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
 - (7) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。
- 7 海外飛来性害虫の飛来に基づく発生予想パターン図
 - (1) トビイロウンカ（図1）

図1 飛来に基づくトビロウソク発生予想パターン図(平成24年8月13日作成)



(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。发育零点12.0°C、发育上限温度28.5°C、发育停止温度33.0°C、有効積算温度(成虫期間100.0°C、卵期間109.4°C、幼虫期間189.4°C)
 (2) 気温はアメダス大宰府を使用した。